

2025年度 鍼灸マッサージ科・鍼灸科

【分野】 専門基礎分野 保健医療福祉とあはきの理念

【科目】 保健と医療Ⅱ

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	奥津 貴子（おくつ たかこ）
単位数	2 単位	実務経験	附属施術所勤務・治療院勤務経験あり
科目必選区分	必修	時間数	36
開講学期	前期	授業形態・回数	講義 18 回

【授業情報】

授業概要	「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律」による免許取得の要件・手続き、業務、広告、罰則と、「医療法」、「医薬品医療機器等法」など業務に係る医事法規、薬事法規について学習するとともに、我が国の社会保障制度のしくみ、その現状や課題についても学習する。特に介護保険制度のしくみや現状について詳しく学習する。
授業の一般目標 (GIO)	<p>【関係法規の範囲】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 免許取得の要件と手続きを理解する。</li> <li>・ 法で定められたあん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師の業務（施術に関する注意、施術所などに関する規則）について理解する。</li> <li>・ 施術所の名称制限・広告制限・広告し得る事項について理解する。</li> <li>・ 罰則規定、両罰規定について理解する。</li> <li>・ 「医療法」、「医薬品医療機器等法」の規定について理解する。</li> </ul> <p>【医療概論の範囲】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 疾病構造の変化、超高齢社会、介護問題など、我が国の医療に関する現状と課題を理解する。</li> <li>・ 医療従事者の現状、チーム医療について理解する。</li> <li>・ 国民医療費の推移や内容、課題について理解する。</li> <li>・ 我が国の医療保険制度の仕組み、現状、課題について理解する。</li> <li>・ 介護保険制度の仕組み、現状、課題について理解する。</li> </ul>

【担当教員から】

教科書	「関係法規」（社団法人東洋療法学校協会編） 医歯薬出版（株）
参考書	特になし
成績評価基準	評価の観点は 1) 授業の理解と表現 2) 知識の浸透度と理解度とし、学期の中間や期末に行う実技や筆記試験の結果を評価とする。
成績評価方法	前期成績評価の基準（評価割合（%）） 中間試験――― 20% 期末試験――― 80%
履修の条件 留意点	前期試験が60%以上かつ卒業試験の合格を以て履修とする。なお、本科目の定期試験受験の為には、授業の60%以上の出席が必要です。体調管理をしっかりと行い、授業の出欠には充分注意してください。
★担当者からの メッセージ	「関係法規」では、資格法である「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律」と、「医療法」、「医薬品医療機器等法」など業務に係る医事法規、薬事法規を学びます。「関係法規」は社会の中であん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師として活動するにあたり、必要不可欠な学問です。この講義で法律の知識を身につけ、活用して欲しいと思います。また、医療従事者の一員として業務を行う上で、我々を取り巻く医療制度の仕組み、現状と課題を理解することは大変重要なことです。この授業を通して現状を知るとともに、今後も変化していくであろう制度について興味を持つようにしてください。
オフィスアワー	授業開講日の休み時間および放課後 1F職員室

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態
前期	1	医療法	・病院、診療所、助産所の規定について説明できる	講義
	2	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律（免許の資格要件）	免許の資格要件（積極的要件・消極的要件）について説明できる	講義
	3	医薬品医療機器等法	・医薬品医療機器等法の規定について説明できる	講義
	4	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律（免許）	免許申請の必要書類、免許と免許証の違い、名簿登録事項について説明できる	講義
	5	社会保障制度の現状と課題	・疾病構造の変化を説明できる ・高齢化社会と介護問題を説明できる	講義
	6	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律（免許）	・名簿の訂正、免許証の交付、免許証の書換交付、免許証の再交付の内容と手続きについて説明できる ・施術者の身分の消滅と復活の条件と手続きについて説明できる	講義
	7	社会保障制度の現状と課題	・医療従事者の現状、チーム医療を説明できる	講義
	8	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律（業務）	・業務の独占と業務の範囲について説明できる ・施術に関する注意を説明できる	講義
	9	中間試験		試験
	10	社会保障制度の現状と課題	・国民医療費の内容、現状、課題を説明できる	講義
	11	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律（業務）	・施術所などに関する規則（開設届などの届出、構造設備基準）について説明できる ・都道府県知事の開設者に対する指示の内容を説明できる	講義
	12	社会保障制度の現状と課題	・医療保険の仕組み、現状について説明できる	講義
	13	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律（業務）	・出張業務、滞在業務の定義と手続きについて説明できる ・処分（業務の停止・無免許業務の取締り）について説明できる	講義
	14	介護保険制度	・介護保険制度の仕組み、現状について説明できる	講義
	15	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律（広告）	施術所の名称制限、広告制限、広告し得る事項について説明できる	講義
	16	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律（罰則）	・施術者・施術所に対する罰則規定とそれにより課せられる罰金について説明できる ・両罰規定について説明できる	講義
	17	期末試験		試験
	18	期末試験の解答・解説		講義

## 2025年度 鍼灸科

【分野】 専門分野 臨床はき学

【科目】 臨床東洋医学Ⅲ

## 【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	行木 由紀子（なめき ゆきこ）	
単位数	2 単位	実務経験	附属施術所勤務・治療院勤務経験あり	
科目必選区分	必修	時間数	36	
開講学期	前期	授業形態・回数	講義	18 回

## 【授業情報】

授業概要	精神保健、母子保健、成人保健、学校保健、高齢者保健、保健統計の現状と問題点や、健康を守るための社会的なシステムを重点的に学習する。
授業の一般目標 (GIO)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プライマリヘルスケアの内容が説明できる。</li> <li>・疾病の予防段階の分類ができる。</li> <li>・精神保健、母子保健、成人保健、学校保健、高齢者保健、保健統計の現状が説明できる。</li> <li>・精神保健、母子保健、成人保健、高齢者保健の衛生行政の仕組みが説明できる。</li> <li>・疫学の意義とその研究方法が説明できる。</li> </ul>

## 【担当教員から】

教科書	「衛生学・公衆衛生学」
参考書	特になし
成績評価基準	評価の観点は1) 授業の理解と表現 2) 知識の浸透度と理解度とし、学期毎に行う中間・期末試験で評価する。
成績評価方法	前期成績評価の基準（評価割合(%)） 中間試験成績-----20% 期末試験成績-----80%
履修の条件 留意点	前期試験が60%以上かつ卒業試験の合格を以て履修とする。なお、本科目の定期試験受験の為には、授業の60%以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。
★担当者からの メッセージ	医療人として、社会の動向を知り、社会に貢献できる素養を身につけることは大切なことです。この講義で、社会の動向を読む力をつけ、将来に役立てて欲しいと思います。
オフィスアワー	授業開講日の休み時間および放課後 1F職員室

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態
前期	1	精神保健	・ 近年の動向が説明できる。	講義
	2	精神保健	・ 入院形態別の特徴が説明できる。	講義
	3	母子保健	・ 指標の定義・特徴が説明できる。 ・ 近年の動向が説明できる。	講義
	4	母子保健	・ 母子保健法の内容が説明できる。	講義
	5	学校保健	・ 学校保健を担う人々について説明できる。 ・ 学校において予防すべき感染症を説明できる。	講義
	6	学校保健	・ 児童生徒の身体の健康の状況を理解できる。	講義
	7	成人保健	・ メタボリックシンドロームを説明できる	講義
	8	成人保健	・ 生活習慣病の現状と動向が説明できる。	講義
	9	中間試験		試験
	10	中間試験の解説・解答		講義
	11	高齢者保健	・ 近年の動向が説明できる。	講義
	12	高齢者保健	・ 近年の動向が説明できる。	講義
	13	疫学	・ 症例対照研究とコホート研究の特徴が説明できる。	講義
	14	疫学	・ 症例対照研究とコホート研究の特徴が説明できる。	講義
	15	保健統計	・ 人口静態統計と人口動態統計の分別ができ、近年の動向が説明できる。 ・ 少子化・高齢化の現状が説明できる。 ・ 国民生活基礎調査と患者調査の分別ができ、近年の動向が説明できる。 ・ 平均余命と平均寿命の定義が説明でき、近年の動向が説明できる。	講義
	16	衛生学・公衆衛生学の意義	・ プライマリヘルスケアの内容が説明できる。 ・ 予防段階とその内容・具体例が分類できる。	講義
	17	前期期末試験		試験
	18	前期期末試験の解説・解答		講義

## 2025年度 鍼灸マッサージ科・鍼灸科

【分野】 専門分野 臨床あはき学

【科目】 臨床東洋医学Ⅳ

## 【基本情報】

配当年次	3 学年		担当教員	吳 瓊（うー ちよん）	
単位数	4 単位		実務経験	施術所勤務経験あり	
科目必選区分	必修		時間数	72	
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	講義	36 回

## 【授業情報】

授業概要	東洋医学臨床論は、診察結果をもとに、あはき治療の適応不適応を判断し、適切な鍼灸治療が行えるように学んでいく学問である。この科目では臨床上、特に遭遇しやすい症候や疾病について西洋医学的、東洋医学的の両観点から、あはき適応不適応を中心に学んでいく。
授業の一般目標 (GIO)	臨床現場では様々な主訴を持った患者が訪れ、鍼灸治療あるいは按摩指圧マッサージ治療を受ける。しかし、疾患によっては、鍼灸治療あるいは按摩指圧マッサージ治療の適応外のものもあるため、この科目ではあはき治療の適応を理解することを目標とする。

## 【担当教員から】

教科書	「東洋医学臨床論」 (株)医道の日本社
参考書	特になし
成績評価基準	評価の観点は1) 授業の理解と表現 2) 知識の浸透度と理解度とし、学期毎に行う中間・期末試験で評価する。
成績評価方法	前期成績評価の基準（評価割合％） 中間試験成績 ----- 10％ 小テスト成績 ----- 10％ 期末試験成績 ----- 80％
履修の条件 留意点	前期試験が60％以上かつ卒業試験の合格を以て履修とする。なお、本科目の定期試験受験の為に、授業の60％以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。
★担当者からの メッセージ	東洋医学臨床論は、臨床でよく目にする疾患について東洋医学的・現代医学的に学んでいきます。患者を想像しながら、自ら考え、判断し、治療方針を立てられるよう積極的に授業に参加してください。また東洋医学概論や経絡経穴概論、解剖学、臨床医学総論、臨床医学各論など様々な教科の知識も必要となりますので、東洋医学臨床論だけでなく他の教科の復習も怠らないで下さい。
オフィスアワー	授業開講日の休み時間および放課後 1F職員室

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態
前期	1	食欲不振	各疾患の現代医学的・東洋医学的な考え方が説明出来る。 注意を要するものが判断できる。 あはき適応となるものが判断できる。	講義
	2	肥満・やせ (るい瘦)		講義
	3	のぼせ・冷え (更年期障害含む)		講義
	4	女性特有の症状 月経異常		講義
	5			講義
	6	女性特有の症状 性器出血・帯下		講義
	7	女性特有の症状 不妊症・つわり		講義
	8	女性特有の症状 骨盤位 (逆子) ・乳汁分泌不全		講義
	9	中間試験		試験
	10	中間試験の解説・解答	講義	
	11	睡眠障害	各疾患の現代医学的・東洋医学的な考え方が説明出来る。 注意を要するものが判断できる。 あはき適応となるものが判断できる。	講義
	12	脱毛症		講義
	13	排尿障害		講義
	14	E D (勃起障害)		講義
	15	疲労と倦怠感		講義
	16	発熱		講義
	17	前期期末試験		試験
	18	前期期末試験の解説・解答	講義	
後期	19	口渇	各疾患の現代医学的・東洋医学的な考え方が説明出来る。 注意を要するものが判断できる。 あはき適応となるものが判断できる。	講義
	20	浮腫・出血傾向		講義
	21	気分障害 (うつ状態)		講義
	22	掻痒感 (痒み) ・肌荒れ・発疹		講義
	23	歩行異常		講義
	24	小児特有の症候		講義
	25			講義
	26	老年特有の症候		講義
	27	中間試験		試験
	28	中間試験の解説・解答	講義	
	29	消化器系	主要症状が急を要するのかが判断できる。 主要症状が注意すべきなのかが判断できる。	講義
	30	運動器系		講義
	31	呼吸器系・循環器系		講義
	32	耳鼻科系・眼科系		講義
	33	泌尿生殖器系・精神神経系		講義
	34	婦人科系・その他の症状		講義
	35	後期期末試験		試験
	36	後期期末試験の解説・解答		講義

2025年度 鍼灸マッサージ科・鍼灸科

【分野】 専門分野 臨床あはき学

【科目】 臨床東洋医学Ⅴ

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	菅原 竜太 (すがわら りゅうた)	
単位数	4 単位	実務経験	附属施術所勤務、治療院勤務経験あり	
科目必選区分	必修	時間数	72	
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	講義 36 回

【授業情報】

授業概要	実務経験をもとに、臨床の現場で遭遇しやすい疾患の病態を理解できるよう、まずは正常な身体の働きを話していく。 3年次は、既に修得した基礎知識を応用し、臨床の現場で解りやすく説明できるようになるため、臨床において遭遇する機会が多い病態と正常な身体機能を関連づけて学習する。
授業の一般目標 (G10)	身体がどのような仕組みと働きをもっているのかを、解剖学で得られる知識と関連づけて正しく理解し、人にわかりやすく説明することができる。 神経、筋、運動、感覚について臨床医学各論と関連付けながら理解を深めていく。

【担当教員から】

教科書	「解剖生理」医歯薬出版（株）
参考書	特になし
成績評価基準	評価の観点は 1) 授業の理解と表現 2) 知識の浸透度と理解度とし、学期毎に行う中間・期末試験で評価する。
成績評価方法	前期成績評価の基準（評価割合(%)） 中間試験成績――― 20% 期末試験成績――― 80%
履修の条件 留意点	前期試験が60%以上かつ卒業試験の合格を以て履修とする。なお、本科目の定期試験受験の為には、授業の60%以上の出席が必要です。体調管理をしっかりと行い、授業の出欠には充分注意してください。
★担当者からの メッセージ	生理学は「人体の正常な働き」を知る学問です。正常な機能を知ることは、「機能の異常＝病気」の原因や成り立ちへの理解、そして治療への道標にもなります。その為の基礎的知識を本科目で身につけて下さい。 日々の復習が大切です。疑問点は放置せず、自ら調べる、積極的に質問に来るなどしてください。
オフィスアワー	授業開講日の休み時間および放課後 1F職員室

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態
前期	1	末梢神経系の機能	脳神経・脊髄神経の働きについて説明できる	講義
	2	自律神経の特徴	交感神経・副交感神経の特徴について説明できる	講義
	3	交感神経系・副交感神経系、自律神経調節の特徴	交感・副交感神経の働きや自律神経性調節の特徴について説明できる	講義
	4	自律神経の神経伝達物質と受容体	交感・副交感神経の神経伝達物質と受容体について説明できる	講義
	5	自律神経系の中核、自律神経の関与する反射	内臓求心性神経や交感・副交感神経を介して起こる反射について説明できる	講義
	6	骨格筋の構造と働き	筋の微細構造について説明できる	講義
	7	筋収縮のしくみ	骨格筋が収縮するしくみ（興奮収縮連関）、筋収縮の種類について説明できる	講義
	8	筋のエネルギー供給の仕組み、心筋・平滑筋の特徴	筋のエネルギー供給、骨格筋・心筋・平滑筋の特徴を説明できる	講義
	9	中間試験		試験
	10	中間試験の解答・解説		講義
	11	骨格筋の神経支配	運動単位、神経筋接合部の興奮伝達について説明できる	講義
	12	筋紡錘・腱受容器、 $\gamma$ 運動ニューロン、骨格筋の緊張	筋紡錘・腱受容器の働き、 $\gamma$ 運動ニューロンの働きについて説明できる	講義
	13	脊髄レベルでの調節	伸張反射、拮抗抑制、誘発筋電図について説明できる	講義
	14	脊髄レベルでの調節	屈曲反射、交叉性伸展反射について説明できる	講義
	15	脊髄レベルでの調節、脳幹による調節	皮膚反射、長脊髄反射、内臓-運動反射、脳幹反射、姿勢反射について説明できる	講義
	16	小脳・大脳基底核・大脳皮質による調節、運動に関する下行性伝導路	小脳・大脳基底核・大脳皮質による調節、錐体路・錐体外路について説明できる	講義
	17	前期期末試験		試験
	18	前期期末試験の解答・解説		講義
後期	19	感覚の分類・性質、皮膚感覚、体性感覚	感覚の種類と性質、体性感覚（痛覚含む）について説明できる	講義
	20	味覚：性質、受容器と伝導路 嗅覚：性質、受容器と伝導路	味覚と嗅覚の性質・受容器・伝導路について説明できる	講義
	21	聴覚：性質、受容器と伝導路 平衡感覚：性質、受容器と伝導路	聴覚と平衡感覚の性質・受容器・伝導路について説明できる	講義
	22	視覚：性質、受容器と伝導路 遠近の調節、明るさの調節	視覚の性質・受容器・伝導路、遠近や明るさの調節について説明できる	講義
	23	自然免疫と獲得免疫、白血球の働き	自然免疫・獲得免疫の特徴、白血球の働きについて説明できる	講義
	24	免疫系に働く液性因子、リンパ系器官、免疫反応	抗体・サイトカイン、補体の働き、液性免疫・細胞性免疫について説明できる	講義
	25	臨床と循環	循環機能に関わる知識を臨床に応用し、患者に説明できる	講義
	26	臨床と呼吸	呼吸機能に関わる知識を臨床に応用し、患者に説明できる	講義
	27	中間試験		試験
	28	中間試験の解答・解説		講義
	29	臨床と消化・吸収	消化・吸収機能に関わる知識を臨床に応用し、患者に説明できる	講義
	30	臨床と代謝・体温	代謝・体温調節機能に関わる知識を臨床に応用し、患者に説明できる	講義
	31	臨床と排泄	排泄機能に関わる知識を臨床に応用し、患者に説明できる	講義
	32	臨床と内分泌	ホルモンに関わる知識を臨床に応用し、患者に説明できる	講義
	33	臨床と神経	神経機能に関わる知識を臨床に応用し、患者に説明できる	講義
	34	臨床と筋・運動	骨格筋や運動機能に関わる知識を臨床に応用し、患者に説明できる	講義
	35	後期期末試験		試験
	36	後期期末試験の解答・解説		講義



## 2025年度 鍼灸科

【分野】 専門分野 臨床はき学

【科目】 臨床東洋医学Ⅵ

## 【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	三田 正樹 (みた まさき) 野澤 崇信 (のざわ たかのぶ)
単位数	2 単位	実務経験	はりきゅう院 院長経験あり／附属施術所勤務・鍼灸整骨院勤務経験あり
科目必選区分	必修	時間数	36
開講学期	前期	授業形態・回数	講義 18 回

## 【授業情報】

授業概要	病理学では、基礎医学の知識をもとに疾患の機序を学ぶものであり、全ての臨床医学の基盤となる。ここでは病因や循環障害を中心に学び、疾患の理解を深める。また、リハビリテーション医学では、障害者や高齢者が自立生活の獲得・維持を目的として受けているリハビリテーション医療と連携できるよう、それらへの理解を深める。
授業の一般目標 (GIO)	<p>【病理学の範囲】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先天性異常、遺伝性疾患、染色体異常、内因外因を理解する。</li> <li>・2年次で学習した内容の理解をより深める。</li> </ul> <p>【リハビリテーション医学の範囲】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・代表的な身体障害に対するリハビリテーションの概要を説明できる。</li> </ul>

## 【担当教員から】

教科書	「病理学概論」第2版 医歯薬出版（株） 「リハビリテーション医学」医歯薬出版（株）
参考書	特になし
成績評価基準	評価の観点は1) 授業の理解と表現 2) 知識の浸透度と理解度とし、学期毎に行う中間・期末試験で評価する。
成績評価方法	前期成績評価の基準（評価割合％） 中間試験成績――― 20％ 期末試験成績――― 80％
履修の条件 留意点	前期試験が60％以上かつ卒業試験の合格を以て履修とする。なお、本科目の定期試験受験の為には、授業の60％以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。
★担当者からの メッセージ	病理学では、2年次に学習した病理学の知識を基本とし、3年次ではその知識を深めていく事になります。2年次に学習した事をしっかりと復習し、授業に望んで下さい。また、リハビリテーション医学では、代表的な身体障害に対するリハビリテーションを学習した後、それぞれの特徴を比較し、共通点・相違点を見出しながらまとめていくとより理解が深まるかと思えます。
オフィスアワー	授業開講日の休み時間および放課後 1F職員室

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SB0s)	講義形態
前期	1	・ 外因	・ 栄養の供給障害について説明できる。 ・ 物理的、科学的、生物学的の病因について説明ができる	講義
	2	リハビリテーション医学各論 ・ 脳卒中	・ 病態、主な合併症、活動制限等を説明できる。 ・ 主な評価方法、訓練内容、リスク管理～生活指導を説明できる。	講義
	3	・ 素因と体質 ・ 遺伝	・ 素因や体質、遺伝について説明ができる	講義
	4	リハビリテーション医学各論 ・ 脳卒中	・ 病態、主な合併症、活動制限等を説明できる。 ・ 主な評価方法、訓練内容、リスク管理～生活指導を説明できる。	講義
	5	・ 先天性異常 ・ 遺伝性疾患 ・ 染色体異常	先天性異常の概要及びその原因について説明ができる 奇形の成立時期について説明ができる	講義
	6	リハビリテーション医学各論 ・ 脳卒中	・ 病態、主な合併症、活動制限等を説明できる。 ・ 主な評価方法、訓練内容、リスク管理～生活指導を説明できる。	講義
	7	・ 内分泌 ・ 免疫 ・ 心因性疾患	・ 内分泌障害、免疫、心因性疾患について説明ができる	講義
	8	リハビリテーション医学各論 ・ 脊髄損傷	・ 病態、主な合併症、活動制限等を説明できる。 ・ 主な評価方法、訓練内容、リスク管理～生活指導を説明できる。	講義
	9	中間試験		試験
	10	中間試験の解説・解答		講義
	11	疾病・障害の診断と治療(免疫)	免疫について理解を深める	講義
	12	リハビリテーション医学各論 ・ 脊髄損傷	・ 病態、主な合併症、活動制限等を説明できる。 ・ 主な評価方法、訓練内容、リスク管理～生活指導を説明できる。	講義
	13	疾病・障害の診断と治療(アレルギー)	アレルギーについて理解を深める	講義
	14	リハビリテーション医学各論 ・ 脊髄損傷	・ 病態、主な合併症、活動制限等を説明できる。 ・ 主な評価方法、訓練内容、リスク管理～生活指導を説明できる。	講義
	15	治療学 I 疾病・障害の診断と治療(病因を中心)	・ 主要な疾患の病因が区別できる	講義
	16	リハビリテーション医学各論 ・ 切断	・ 病態、主な合併症、活動制限等を説明できる。 ・ 主な評価方法、訓練内容、リスク管理～生活指導を説明できる。	講義
	17	前期期末試験		試験
	18	前期期末試験の解説・解答		講義

2025 年度 鍼灸マッサージ科・鍼灸科

【分野】 専門分野 実習

【科目】 はり・きゅう実習－3

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	佐藤 亨子 (さとう きょうこ) 船水 隆広 (ふなみず たかひろ)	
単位数	2 単位	実務経験	附属施術所勤務	
科目必選区分	必修	時間数	72	
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	実習 36 回

【授業情報】

授業概要	消毒法や鍼灸の基本手技の習熟度を確し、応用技術や東洋医学的な治療を学んでいく。さらに将来の臨床で役立つよう、小児鍼や美容鍼の知識・技術を学んでいく。
授業の一般目標 (G10)	<ol style="list-style-type: none"> <li>2 年間で学んだ消毒法や基本手技の習熟度を確する。</li> <li>内科疾患などに対して、病態把握ができ、正確に治療を行う技術を身につける。</li> <li>東洋医学的な発想に基き施術を組み立てる。</li> <li>臨床に役立つ、小児鍼・美容鍼を実践的に学ぶ。</li> </ol>

【担当教員から】

教科書	「東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉」 東洋療法学校協会編 医道の日本社
参考書	「はりきゅう理論」 東洋療法学校協会編 医道の日本社
成績評価基準	評価の観点は 1) 実技の習得状況、2) 授業の理解度について、学期ごとに行う中間および期末試験で評価する。
成績評価方法	成績評価の基準 (評価割合 (%)) 期末試験成績-----100%
履修の条件 留意点	各期試験の平均点が 60% 以上かつ認定試験の合格を以て履修とする。なお、本科目の定期試験受験の為には、授業の 60% 以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。
★担当教員からのメッセージ	運動器疾患以外の刺鍼に慣れると共に、正確な取穴、丁寧な施術を心掛けましょう。解剖学的な知識に東洋医学的要素を加味した施術が出来ると面白さが増すと思います。教科書「経穴経絡概論」は必ず、持参してください。積極的に参加し、経験値をあげましょう。
オフィスアワー	授業開講日の休み時間および放課後 1F職員室

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標(SBOs)	講義形態
前期	1	刺鍼の基本手技	人体に安全に刺鍼できる	実習
	2	応用実技	腹痛の治療ができる。	実習
	3	応用実技	腹痛の治療ができる。	実習
	4	応用実技	腹痛の治療ができる。	実習
	5	応用実技	頭痛の治療ができる。	実習
	6	応用実技	頭痛の治療ができる。	実習
	7	応用実技	不眠の治療ができる。	実習
	8	応用実技	眼精疲労の治療ができる。	実習
	9	応用実技	冷え性の治療ができる。	試験
	10	応用実技	めまいの治療ができる。	実習
	11	応用実技	高血圧・低血圧の治療ができる。	実習
	12	応用実技	五十肩の治療ができる。	実習
	13	応用実技	上肢痛の治療ができる。	実習
	14	応用実技	腰下肢痛の治療ができる。	実習
	15	応用実技	腰下肢痛の治療ができる。(側臥位)	実習
	16	前期期末試験	鍼試験	試験
	17	前期期末試験	灸試験	試験
	18	前期期末試験の評価・フィードバック		実習
後期	19	東洋医学診察法	東洋医学的診断(舌診・脈診)ができる。	実習
	20	東洋医学診察法	東洋医学的診断(脈診・腹診)ができる。	実習
	21	東洋医学的治療	多鍼術を行うことができる。	実習
	22	東洋医学的治療	てい鍼術の基礎を実践することができる。	実習
	23	東洋医学的治療	てい鍼術の基礎を実践することができる。	実習
	24	東洋医学的治療	てい鍼術の基礎を実践することができる。	実習
	25	東洋医学的治療	小児鍼を理解し実践することができる。	実習
	26	鍼灸応用技術	小児に対する治療ができる。	実習
	27	鍼灸応用技術	小児に対する治療ができる。	実習
	28	鍼灸応用技術	美容鍼の刺法ができる。	実習
	29	鍼灸応用技術	美容鍼の刺法ができる。	実習
	30	鍼灸応用技術	美容てい鍼ができる。	実習
	31	鍼灸応用技術	美容てい鍼ができる。	実習
	32	鍼灸応用技術	美容鍼を行うことができる。	実習
	33	鍼灸応用技術	学生同士で施術者と患者に分かれ美容鍼灸の全身治療を行う。	実習
	34	鍼灸応用技術	学生同士で施術者と患者に分かれ美容鍼灸の全身治療を行う。	実習
	35	後期期末試験		試験
	36	後期期末試験の解説・解答		実習



【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標(SBOs)	講義形態
前期	1	スポーツ医学の概要	スポーツ外傷とスポーツ障害が理解できる	実習
	2	運動性肩関節痛（野球肩の鍼灸治療）	肩関節周囲炎の治療が出来る	実習
	3	運動性肘関節痛（テニス肘の鍼灸治療）	肘関節痛の治療が出来る	実習
	4	運動性腰痛（運動性腰痛の鍼灸治療）	運動性腰痛の治療が出来る	実習
	5	運動性腰痛（運動性腰痛の鍼灸治療）	運動性腰痛の治療が出来る	実習
	6	アキレス腱炎の鍼灸治療	アキレス腱炎の検査法と治療が出来る	実習
	7	コンパートメント症候群の鍼灸治療	コンパートメント症候群の治療が出来る	実習
	8	運動性膝関節痛の鍼灸治療	ジャンパー膝の治療が出来る	実習
	9	中間試験・中間試験後解説・評価		試験
	10	刺鍼の基本的な手技	腰下肢の刺鍼に於いて、直刺、斜刺、横刺など思う方向に刺鍼が出来る。	実習
	11	刺鍼の基本的な手技	腰下肢の刺鍼に於いて、直刺、斜刺、横刺など思う方向に刺鍼が出来る。	実習
	12	刺鍼の基本的な手技	膝関節周囲の刺鍼に於いて、直刺、斜刺、横刺など思う方向に刺鍼が出来る。	実習
	13	刺鍼の基本的な手技	肩関節周囲の刺鍼に於いて、直刺、斜刺、横刺など思う方向に刺鍼が出来る。	実習
	14	刺鍼の基本的な手技	頸肩腕の刺鍼に於いて、直刺、斜刺、横刺など思う方向に刺鍼が出来る。	実習
	15	刺鍼の基本的な手技	頸肩腕の刺鍼に於いて、直刺、斜刺、横刺など思う方向に刺鍼が出来る。	実習
	16	施灸の基本的な手技	リズム良く同一点に同じ大きさ、形の施灸が出来る	実習
	17	施灸の基本的な手技のしあげ	リズム良く同一点に同じ大きさ、形の施灸が出来る	実習
	18	前期期末試験		試験
後期	19	前期期末試験の解説・評価		実習
	20	模擬実技（肩関節痛）	学生同士で施術者と患者に分かれ医療面接・検査法・鍼灸治療・診療記録記入まで行う	実習
	21	模擬実技（肩関節痛）	学生同士で施術者と患者に分かれ医療面接・検査法・鍼灸治療・診療記録記入まで行う	実習
	22	模擬実技（肩関節痛）	学生同士で施術者と患者に分かれ医療面接・検査法・鍼灸治療・診療記録記入まで行う	実習
	23	模擬実技（肩関節痛）	学生同士で施術者と患者に分かれ医療面接・検査法・鍼灸治療・診療記録記入まで行う	実習
	24	模擬実技（頸肩腕痛）	学生同士で施術者と患者に分かれ医療面接・検査法・鍼灸治療・診療記録記入まで行う	実習
	25	模擬実技（頸肩腕痛）	学生同士で施術者と患者に分かれ医療面接・検査法・鍼灸治療・診療記録記入まで行う	実習
	26	模擬実技（腰痛・下肢痛）	学生同士で施術者と患者に分かれ医療面接・検査法・鍼灸治療・診療記録記入まで行う	実習
	27	模擬実技（腰痛・下肢痛）	学生同士で施術者と患者に分かれ医療面接・検査法・鍼灸治療・診療記録記入まで行う	実習
	28	模擬実技（腰痛・下肢痛）	学生同士で施術者と患者に分かれ医療面接・検査法・鍼灸治療・診療記録記入まで行う	実習
	29	模擬実技（膝関節痛）	学生同士で施術者と患者に分かれ医療面接・検査法・鍼灸治療・診療記録記入まで行う	実習
	30	模擬実技（膝関節痛）	学生同士で施術者と患者に分かれ医療面接・検査法・鍼灸治療・診療記録記入まで行う	実習
	31	灸の特効穴	隔物灸を行う事が出来る	実習
	32	灸の特効穴	隔物灸を行う事が出来る	実習
	33	灸の特効穴	棒灸を行う事が出来る	実習
	34	灸の特効穴	棒灸を行う事が出来る	実習
	35	後期期末試験		試験
	36	後期期末試験の解説・解答		実習

## 2025年度 鍼灸科

【分野】 専門分野 臨床実習

【科目】 臨床実習Ⅲ

## 【基本情報】

配当年次	3 学年		担当教員	鍼灸マッサージ科専任教員、臨床実習指導者	
単位数	1 単位			附属施術所勤務など	
科目必選区分	必修		時間数	45	
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	実習	24 回

## 【授業情報】

授業概要	<p>施術者（指導員）による診察施術を補助する。グループ内で役割分担し、責任感を持ったチームワークで診察を実践する。患者の安全確保、患者との適切な信頼関係構築に努めながら、正規授業で得た基本的診察法の知識・技術を実践する。また、実際に患者さんに施術を行う。</p> <p>適切な診療録の作成方法を学習する。</p>
授業の一般目標 (GIO)	<p>患者への敬意と思いやりを持った明確なコミュニケーションを実践できる。</p> <p>基本的な診察法の知識・技術を、患者に対して安全に実践できる。</p> <p>あま指、鍼灸の技術を衛生的で安全に実践できる。診療録を適切に作成できる。</p> <p>自己課題、自己目標を見つけることができる。</p>

## 【担当教員から】

教科書	特になし
参考書	他授業でのノート、資料など
成績評価基準	<p>鍼灸師としての身だしなみが適切である。</p> <p>患者とのコミュニケーションを適切に実施できる。</p> <p>基本的な診察法の知識・技術を適切かつ安全に運用できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 接遇、医療面接、血圧・脈拍測定、徒手検査各種、施術</li> </ul> <p>診療録を適切に作成できる。</p>
成績評価方法	<p>成績評価の基準（評価割合(%)）</p> <p>上記評価基準の各内容に対する評価————— 100%</p> <p>各回の実習指導者が上記を評価する。全回終了後、各回の評価をまとめて算出したものを当年度臨床実習の総合評価とする。</p>
履修の条件 留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生個々に実習日が設定されます。臨床実習のルールに則り、身だしなみを整えて臨んでください。</li> <li>・ 臨床実習は出席率 100%も履修条件です。体調不良等やむを得ず出席が困難な場合、速やかに学校へ連絡してください。</li> </ul>
★担当者からの メッセージ	<p>主に鍼灸臨床で多くを占める筋骨格系の障害（主に頸、肩、上肢、腰、下肢、膝）を抱える患者に対し、指導教員による診察・施術のうち大部分を学生の皆さんに補助していただきます。ご協力いただく患者さんの安全のため、学科と実技授業で学習した身体構造・機能、基本的な診察方法などの知識・技術をしっかり復習して臨床実習に挑んでください。</p> <p>1、2年次に引き続き、集合スケジュール、適切な身だしなみ、他者との適切な信頼関係構築、施設の清掃・整理整頓にも抜かりなく取り組んでください。</p>
オフィスアワー	授業時間外

【授業計画】

学期	回数	内容	到達目標 (SBOs)	講義形態	
		臨床実習前試験	・徒手検査法などについて確認試験で合格できる	試験	
		臨床実習ガイダンス	・臨床実習の内容など説明を受け、理解する	講義	
前期	1	当校施術所にて臨床実習Ⅲ-1	指導教員による診察、施術の流れを理解する ・SOAP ・インフォームド・コンセント ・鍼灸の運用 毎回役割を変えながら、診察の基本項目を適切に実施できる ・医療面接 ・血圧・脈拍測定 ・各種機能測定・徒手検査 [頸・上肢・肩・腰下肢・膝・その他]  病態を推察できる 治療方針を考案できる 診療録を適切に作成できる	臨床実習	
	2	診察、鍼灸施術の補助		臨床実習	
	3	当校施術所にて臨床実習Ⅲ-1		臨床実習	
	4	診察、鍼灸施術の補助		臨床実習	
	5	当校施術所にて臨床実習Ⅲ-1		臨床実習	
	6	診察、鍼灸施術の補助		臨床実習	
	7	当校施術所にて臨床実習Ⅲ-1		臨床実習	
	8	診察、鍼灸施術の補助		臨床実習	
	9	当校施術所にて臨床実習Ⅲ-1		臨床実習	
	10	診察、鍼灸施術の補助		臨床実習	
	11	当校施術所にて臨床実習Ⅲ-1		臨床実習	
	12	診察、鍼灸施術の補助		臨床実習	
	13	当校施術所にて臨床実習Ⅲ-2		グループ内で役割分担を決め、SOAPに沿って鍼灸施術全般を行うことができる	臨床実習
	14	診察、鍼灸施術の補助		臨床実習	
	15	当校施術所にて臨床実習Ⅲ-2		診療録を適切に作成できる	臨床実習
	16	診察、鍼灸施術の補助		臨床実習	
	17	当校施術所にて臨床実習Ⅲ-2		臨床実習	
	18	診察、鍼灸施術の補助		臨床実習	
後期	19	当校施術所にて臨床実習Ⅲ-2	グループ内で役割分担を決め、SOAPに沿って鍼灸施術全般を行うことができる	臨床実習	
	20	診察、鍼灸施術の補助	臨床実習		
	21	当校施術所にて臨床実習Ⅲ-2	診療録を適切に作成できる	臨床実習	
	22	診察、鍼灸施術の補助	臨床実習		
	23	当校施術所にて臨床実習Ⅲ-2	臨床実習		
	24	診察、鍼灸施術の補助	臨床実習		

※社会情勢や実習施設等の諸事情により、実施内容や順番を変更する場合があります。



2025年度 鍼灸マッサージ科・鍼灸科

【分野】 専門分野 総合領域

【科目】 東洋医学総合講座 I - 1

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	大路 桂子（おおじ けいこ）	
単位数	4 単位	実務経験	はりきゅうマッサージ治療室勤務	
科目必選区分	必修	時間数	72	
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	講義 36 回

【授業情報】

授業概要	臨床において重要となる脳や神経の分布や走行、感覚器の特徴、また、病態把握に必要な体表解剖について理解し、鍼灸施術を想定し、身体をとらえられるよう学習します。
授業の一般目標 (G10)	西洋医学的な病態把握につながるよう、以下の分野を理解し、説明できるようにする。 神経系：中枢神経の構造、末梢神経の構造と求心性、遠心性神経の分布 感覚器系：味覚器、嗅覚器、視覚器、平衡聴覚器、皮膚等の構造 体表解剖：体表面から見た生体内部の構造

【担当教員から】

教科書	「解剖学」 第2版 (社)東洋療法学校協会編 (株) 医歯薬出版
参考書	人体の正常構造と機能 日本医事新報社
成績評価基準	評価の観点は1) 授業の理解と表現 2) 知識の浸透度と理解度とし、学期毎に行う中間・期末試験で評価する。
成績評価方法	前期成績評価の基準（評価割合(%)） 中間試験成績-----20% 期末試験成績-----80%
履修の条件 留意点	前期試験が60%以上かつ卒業試験の合格を以て履修とする。なお、本科目の定期試験受験の為には、授業の60%以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。
★担当者からの メッセージ	3年生では、主に神経系、感覚器系、体表解剖、そして、これまでの総復習を行います。理解しにくい部分も出てくると思いますが、その都度、教科書等で調べてください。それでもわからないところは、授業内、休み時間等に質問してください。わからないことをそのままにせず、しっかり復習をしてください。毎時間小テストを行いますので、自身の理解度を確認してください。 正常な人体を理解することで、疾病の原因が理解でき、臨床に活かすことができます。他教科とのつながりも見え、理解が深まる一年になるよう学んでいきましょう。
オフィスアワー	授業開講日の休み時間 1F職員室

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態
前期	1	神経系：神経概要 脊髄 延髄	神経概要、脊髄、延髄について説明できる	講義
	2	神経系：神経概要 脊髄 延髄	神経概要、脊髄、延髄について説明できる	講義
	3	神経系：橋 小脳 中脳 間脳	橋、小脳、中脳、間脳について説明できる	講義
	4	神経系：大脳 髄膜 脳室	大脳、脳室、髄膜の構造について説明できる	講義
	5	神経系：髄膜 脳室 脊髄の伝導路	髄膜・脳室の構造、脊髄の伝導路について説明できる	講義
	6	神経系：脳神経の分布	各脳神経について説明できる	講義
	7	神経系：脳神経の分布	各脳神経について説明できる	講義
	8	神経系：脳神経・自律神経系の分布	脳神経・自律神経の構造・交感神経・副交感神経系について説明できる	講義
	9	中間試験		試験
	10	中間試験の解説・解答 神経系：自律神経の分布	試験内容を理解する 自律神経系について説明できる	講義
	11	神経系：脊髄神経の分布	脊髄神経の分布について説明できる	講義
	12	神経系：脊髄神経の分布	各部の脊髄神経について説明できる	講義
	13	神経系：脊髄神経の分布	各部の脊髄神経について説明できる	講義
	14	神経系：脊髄神経の分布	各部の脊髄神経について説明できる	講義
	15	感覚器系：視覚器の構造	視覚器の構造を説明できる	講義
	16	感覚器系：聴覚器・平衡感覚器の構造	聴覚器、平衡感覚器の構造を説明できる	講義
	17	前期期末試験		試験
	18	前期期末試験の解説・解答		講義
後期	19	感覚器系：皮膚の構造	皮膚の構造（表皮）を説明できる	講義
	20	感覚器系：皮膚の構造	皮膚の構造（真皮・皮下組織）を説明できる	講義
	21	体表解剖 頭頸部、体幹部	体表から触れるものについて理解する	講義
	22	体表解剖 上肢・下肢	上肢・下肢で体表から触れるものについて理解する	講義
	23	解剖学と臨床応用	臨床で必要とされる解剖学的な知識について理解する（人体解剖概説）	講義
	24	解剖学と臨床応用	臨床で必要とされる解剖学的な知識について理解する（骨格系）	講義
	25	解剖学と臨床応用	臨床で必要とされる解剖学的な知識について理解する（筋①系）	講義
	26	解剖学と臨床応用	臨床で必要とされる解剖学的な知識について理解する（筋②系）	講義
	27	中間試験		試験
	28	中間試験の解説・解答 解剖学と臨床応用	臨床で必要とされる解剖学的な知識について理解する（脈管系）	講義
	29	解剖学と臨床応用	臨床で必要とされる解剖学的な知識について理解する（脈管系）	講義
	30	解剖学と臨床応用	臨床で必要とされる解剖学的な知識について理解する（消化器系）	講義
	31	解剖学と臨床応用	臨床で必要とされる解剖学的な知識について理解する（呼吸器系）	講義
	32	解剖学と臨床応用	臨床で必要とされる解剖学的な知識について理解する（泌尿・生殖器系）	講義
	33	解剖学と臨床応用	臨床で必要とされる解剖学的な知識について理解する（中枢神経系）	講義
	34	解剖学と臨床応用	臨床で必要とされる解剖学的な知識について理解する（末梢神経系）	講義
	35	後期期末試験		試験
	36	後期期末試験の解説・解答		講義

## 2025年度 鍼灸マッサージ科・鍼灸科

【分野】 専門分野 総合領域

【科目】 東洋医学総合講座 I - 2

## 【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	中島 聡大 (なかじま あきひろ)		
単位数	4 単位	実務経験	施術所勤務経験あり		
科目必選区分	必修	時間数	72		
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	講義	36 回

## 【授業情報】

授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鍼灸臨床において遭遇する機会が多い疾患や症候について重点的に学習する。</li> <li>・臨床に必要な知識、病態生理学、診断・治療学を修得する。</li> </ul>
授業の一般目標 (G10)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症、内分泌疾患、神経疾患、リウマチ性疾患・膠原病、婦人科、皮膚科疾患、眼科疾患、耳鼻咽喉科疾患、精神科疾患、心療内科の概念・疫学・成因と病態生理・症状・診断・治療・予後について説明できる。</li> <li>・一般外科、麻酔科の概念について説明できる。</li> <li>・感染症、消化管疾患、肝・胆・膵疾患、呼吸器疾患、腎・尿器疾患、内分泌疾患、代謝・栄養疾患、整形外科疾患、循環器疾患、血液・造血器疾患、神経疾患、リウマチ性疾患・膠原病、婦人科、皮膚科疾患、眼科疾患、耳鼻科疾患、精神科疾患、心療内科についての臨床に必要な知識、診断・治療学を修得する。</li> <li>・一般外科、麻酔科の臨床に必要な知識を修得する。</li> </ul>

## 【担当教員から】

教科書	臨床医学各論
参考書	特になし
成績評価基準	評価の観点は 1) 授業の理解と表現 2) 知識の浸透度と理解度とし、学期毎に行う中間・期末試験で評価する。
成績評価方法	前期成績評価の基準 (評価割合 (%)) 中間試験成績 ――― 20 % 期末試験成績 ――― 80 %
履修の条件 留意点	前期試験が 60 % 以上かつ卒業試験の合格を以て履修とする。なお、本科目の定期試験受験の為には、授業の 60 % 以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。
★担当者からの メッセージ	「臨床医学各論」では、鍼灸臨床において遭遇する機会が多い疾患や症候について学びます。それらの知識がなければ、患者の病態を把握し、鍼灸の適応疾患に該当するかの鑑別や治療することもできません。また、最近では医師や看護師など他の医療職と連携を組むこともあり、鍼灸の知識だけにとどまらず、幅広い医療の知識を身につけることが求められています。「臨床医学各論」では聞き慣れない専門用語など学ぶことが多いですが、必ず将来役に立ちます。しっかり学んでいきましょう。
オフィスアワー	授業開講日の休み時間 1F職員室

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標(SBOs)	講義形態
前期	1	感染症（細菌性）	猩紅熱、百日咳、ジフテリア、破傷風について説明できる	講義
	2	感染症（細菌性）	ブドウ球菌感染症、細菌性食中毒、細菌性赤痢、コレラ、腸チフス、発疹チフスについて説明できる	講義
	3	感染症（ウイルス性）	インフルエンザ、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎について説明できる	講義
	4	感染症（ウイルス性・性感染症）	単純ヘルペス、水痘・带状疱疹、梅毒、淋病、性器クラミジア感染症、エイズについて説明できる	講義
	5	神経疾患（脳血管疾患）	脳梗塞、一過性脳虚血発作について説明できる	講義
	6	神経疾患（脳血管疾患）	脳出血、クモ膜下出血について説明できる	講義
	7	神経疾患（感染性疾患、脳・脊髄腫瘍）	・髄膜炎、神経梅毒、ポリオについて説明できる ・脳腫瘍、脊髄腫瘍について説明できる	講義
	8	神経疾患（基底核変性疾患）	パーキンソン病、ハンチントン舞蹈病、脳性小児麻痺、ウィルソン病について説明できる	講義
	9	前期中間試験		試験
	10	前期中間試験の解説・解答		講義
	11	神経疾患（その他変性疾患）	脊髄小脳変性症、脊髄空洞症、進行性核上性麻痺について説明できる	講義
	12	神経疾患（認知症）	認知症について説明できる	講義
	13	神経疾患（筋疾患）	重症筋無力症、筋ジストロフィーについて説明できる	講義
	14	神経疾患（運動ニューロン疾患）	筋萎縮性側索硬化症について説明できる	講義
	15	神経疾患（末梢神経性疾患）	ギランバレー症候群、圧迫性および絞扼性ニューロパシー、末梢性顔面神経麻痺、ラムゼーハント症候群について説明できる	講義
	16	神経疾患（神経痛、機能的疾患）	・神経痛について説明できる ・機能的頭痛について説明できる	講義
	17	前期期末試験		試験
	18	前期期末試験の解説・解答		講義
後期	19	リウマチ性疾患・膠原病	リウマチ性疾患、膠原病について説明できる	講義
	20	リウマチ性疾患・膠原病	膠原病、食物アレルギー、血清病について説明できる	講義
	21	一般外科、麻酔科	・外科で使われる用語の概念について説明できる ・熱傷、凍瘡と凍傷、ショック、外科的感染症について説明できる ・救急処置、心肺蘇生術の手順について説明できる ・全身麻酔、局所麻酔について説明できる	講義
	22	婦人科疾患、皮膚科疾患	・子宮頸癌、子宮体癌、乳癌、更年期障害、月経異常について説明できる ・皮膚炎、じんま疹、湿疹、円形脱毛症について説明できる	講義
	23	眼科疾患、耳鼻科疾患	・結膜炎、角膜炎、麦粒腫、白内障、緑内障、眼精疲労について説明できる ・メニエール病、中耳炎、突発性難聴、アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎について説明できる	講義
	24	精神科疾患、心療内科、加齢に伴う病態	・神経症、統合失調症、うつ病、アルコール依存症について説明できる ・心身症、神経性食欲不振症、神経性過食症について説明できる ・フレイル、サルコペニア、ロコモについて説明できる	講義
	25	感染症、消化管疾患	感染症、消化管疾患について臨床に必要な知識、診断・治療学を習得する	講義
	26	肝・胆・膵疾患、呼吸器疾患	肝・胆・膵疾患、呼吸器疾患について臨床に必要な知識、診断・治療学を習得する	講義
	27	後期中間試験		試験
	28	後期中間試験の解説・解答		講義
	29	腎・尿器疾患、内分泌疾患	腎・尿器疾患、内分泌疾患について臨床に必要な知識、診断・治療学を習得する	講義
	30	代謝・栄養疾患、リウマチ性疾患・膠原病	代謝・栄養疾患、リウマチ性疾患・膠原病について臨床に必要な知識、診断・治療学を習得する	講義
	31	循環器疾患、血液・造血管疾患	循環器疾患、血液・造血管疾患について臨床に必要な知識、診断・治療学を習得する	講義
	32	神経疾患	神経疾患について臨床に必要な知識、診断・治療学を習得する	講義
	33	整形外科疾患	整形外科疾患について臨床に必要な知識、診断・治療学を習得する	講義
	34	その他の領域	・一般外科、麻酔科について臨床に必要な知識を習得する ・婦人科疾患、皮膚科疾患、眼科疾患、耳鼻科疾患、精神科疾患、心療内科、加齢に伴う病態について臨床に必要な知識、診断・治療学を習得する	講義
	35	後期期末試験		試験
	36	後期期末試験の解説・解答		講義

2025年度 鍼灸マッサージ科・鍼灸科

【分野】 専門分野 総合領域

【科目】 東洋医学総合講座 I - 3

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	本井 美加（もとい みか）	
単位数	4 単位	実務経験	治療室勤務・治療院 院長	
科目必選区分	必修	時間数	72	
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	講義 36 回

【授業情報】

授業概要	チーム医療の一員として活躍するために臨床医学の必要性に触れ、あはき師が理解しておくべき主な疾患について病態生理や原因疾患、臨床症状、検査鑑別、治療などを理解し、実際の治療に生かすことができる。
授業の一般目標 (GIO)	<p>感覚検査や運動機能検査の種類を知り、実際に行うことができる。</p> <p>尿や便、血液検査や血液生化学検査の概要を理解し、異常状態から疾患を推測できる。</p> <p>画像診断の種類を知り、それぞれの特徴を理解する。</p> <p>患者の心理学を学び、実際の医療面接に生かすことができる。</p> <p>あはき師がよく遭遇する主な疾患に対して一連の診察ができる。</p>

【担当教員から】

教科書	臨床医学総論 第2版（医歯薬出版株式会社）
参考書	特になし
成績評価基準	評価の観点は 1) 授業の理解と表現 2) 知識の浸透度と理解度とし、学期毎に行う中間・期末試験で評価する。
成績評価方法	<p>前期成績評価の基準（評価割合（%））</p> <p>中間試験成績――― 20%</p> <p>期末試験成績――― 80%</p>
履修の条件 留意点	前期試験が60%以上かつ卒業試験の合格を以て履修とする。なお、本科目の定期試験受験の為には、授業の60%以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。
★担当者からの メッセージ	復習の時間を多く取り、これまで学習してきた解剖学や生理学、臨床医学各論などの知識と融合させ、総合的かつ多角的な学習をしていきましょう。また得た知識を患者様に行うことができるよう実際の臨床につなげていきましょう。
オフィスアワー	授業開講日の休み時間 1F職員室

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態
前期	1	神経系の診察 1	感覚検査法の意義と方法、種類を学ぶ	講義
	2	神経系の診察 2	反射検査の意義と種類、注意事項を学ぶ	講義
	3	神経系の診察 3	脳神経系の検査の種類を学ぶ	講義
	4	神経系の診察 4	脳神経系の検査・髄膜刺激症状を学ぶ	講義
	5	神経系の診察 5	その他の検査(高次脳機能検査)を学ぶ	講義
	6	神経系の診察 6	神経系の診察の全体像と臨床との関係性を理解する	講義
	7	運動機能検査 1	運動麻痺・筋肉の異常を学ぶ	講義
	8	運動機能検査 2	不随意運動・協調運動を学ぶ	講義
	9	中間試験		試験
	10	中間試験の解説・解答		講義
	11	運動機能検査 3	起立と歩行・関節可動域検査を学ぶ	講義
	12	運動機能検査 4	徒手筋力検査法、日常生活動作等を学ぶ	講義
	13	運動機能検査 5	運動機能検査と臨床との関係性を理解する	講義
	14	その他の診察	救急時の診察、女性や小児の診察等を学ぶ	講義
	15	臨床検査法 1	一般検査として尿や便の検査を学ぶ	講義
	16	臨床検査法 2	血液生化学検査を学ぶ	講義
	17	前期期末試験		試験
	18	前期期末試験の解説・解答		講義
後期	19	臨床検査法 3	生理学的検査、画像診断の概要を学ぶ	講義
	20	臨床検査法 4	臨床検査法と実際の臨床との関係性を理解する	講義
	21	治療学	概要、薬物療法、食事療法、理学療法を学ぶ	講義
	22	臨床心理 1	その他の療法、患者の心理等を学ぶ	講義
	23	臨床心理 2	カウンセリングの概要を学ぶ	講義
	24	臨床東洋医学 1	主な症状の疾患(頭部疾患)を理解する	講義
	25	臨床東洋医学 2	主な症状の疾患(目耳鼻疾患)を理解する	講義
	26	臨床東洋医学 3	主な症状の疾患(呼吸器疾患)を理解する	講義
	27	中間試験		試験
	28	中間試験の解説・解答		講義
	29	臨床東洋医学 4	主な症状の疾患(心臓疾患)を理解する	講義
	30	臨床東洋医学 5	主な症状の疾患(婦人科疾患)を理解する	講義
	31	臨床東洋医学 6	主な症状の疾患(整形外科疾患)を理解する	講義
	32	臨床東洋医学 7	主な症状の疾患(不定愁訴1)を理解する	講義
	33	臨床東洋医学 8	主な症状の疾患(不定愁訴2)を理解する	講義
	34	臨床東洋医学 9	主な症状の疾患(意識障害)を理解する	講義
	35	後期期末試験		試験
	36	後期期末試験の解説・解答		講義

## 2025年度 鍼灸科

【分野】 専門分野 総合領域

【科目】 東洋医学総合講座Ⅰ-4

## 【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	三田 正樹 (みた まさき) 野澤 崇信 (のざわ たかのぶ)		
単位数	2 単位	実務経験	はりきゅう院 院長経験あり／附属施術所勤務・鍼灸整骨院勤務経験あり		
科目必選区分	必修	時間数	36		
開講学期	後期	授業形態・回数	講義	18 回	

## 【授業情報】

授業概要	病理学では、循環障害、炎症、腫瘍等を含め、身体に変化をもたらす全ての病態を対象とするがここでは特に重要な項目について学び、理解を深めるとともに、リハビリテーション医学では、障害者や高齢者が自立生活の獲得・維持を目的として受けているリハビリテーション医療と連携できるよう、それらへの理解を深める。
授業の一般目標 (G10)	<p>【病理学の範囲】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>臨床に必要な疾病・障害の診断と治療について理解をする。</li> <li>2年次で学習した内容の理解をより深める。</li> </ul> <p>【リハビリテーション医学】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>代表的な身体障害に対するリハビリテーションの概要を説明できる。</li> </ul>

## 【担当教員から】

教科書	「病理学概論」第2版 医歯薬出版（株） 「リハビリテーション医学」医歯薬出版（株）
参考書	特になし
成績評価基準	評価の観点は1) 授業の理解と表現 2) 知識の浸透度と理解度とし、学期毎に行う中間・期末試験で評価する。
成績評価方法	成績評価の基準 卒業試験に準ずる
履修の条件 留意点	卒業試験の合格を以て履修とする。 なお、本科目の定期試験受験の為には、授業の60%以上の出席が必要です。 体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。
★担当者からの メッセージ	病理学については、2年次に学習した病理学の知識を基本とし、3年次ではその知識を深めていく事になります。2年次に学習した事をしっかりと復習し、授業に望んで下さい。また、リハビリテーション医学については、代表的な身体障害に対するリハビリテーションを学習した後、それぞれの特徴を比較し、共通点・相違点を見出しながらまとめていくとより理解が深まると思います。
オフィスアワー	授業開講日の休み時間および放課後 1F職員室

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態
後期	1	治療学 I 疾病・障害の診断と治療（循環障害）	循環障害の充血、鬱血、虚血、貧血、出血の定義や症状、原因が言える	講義
	2	リハビリテーション医学各論 ・小児のリハビリテーション	病態、主な合併症、活動制限等を説明できる。主な評価方法、訓練内容、リスク管理～生活指導を説明できる。	講義
	3	治療学 I 疾病・障害の診断と治療（循環障害）	循環障害の血栓症、塞栓症、梗塞の定義や原因が説明できる 栓子の種類が言える 梗塞の代表例が挙げられる	講義
	4	リハビリテーション医学各論 ・パーキンソン病	病態、主な合併症、活動制限等を説明できる。主な評価方法、訓練内容、リスク管理～生活指導を説明できる。	講義
	5	疾病・障害の診断と治療（浮腫、脱水、ショック）	循環障害の浮腫、脱水症状、ショックが説明できる	講義
	6	リハビリテーション医学各論 ・その他 運動のしくみ ・姿勢とその異常／・正常歩行と異常歩行	各障害のリハビリテーションについて、それぞれの特徴を比較し、共通点・相違点を説明できる。姿勢や重心、正常歩行（歩行のサイクル、重心移動、筋活動）と異常歩行について説明できる。	講義
	7	疾病・障害の診断と治療（退行性病変）	退行性病変について説明が出来る	講義
	8	各障害のリハビリテーションの比較・分類	各障害のリハビリテーションについて、それぞれの特徴を比較し、共通点・相違点を説明できる。	講義
	9	中間試験		試験
	10	中間試験の解説・解答		講義
	11	疾病・障害の診断と治療（進行性病変）	進行性病変について説明が出来る	講義
	12	各障害のリハビリテーションの比較・分類	各障害のリハビリテーションについて、それぞれの特徴を比較し、共通点・相違点を説明できる。	講義
	13	疾病・障害の診断と治療（炎症）	炎症について理解を深める	講義
	14	各障害のリハビリテーションの比較・分類	各障害のリハビリテーションについて、それぞれの特徴を比較し、共通点・相違点を説明できる。	講義
	15	疾病・障害の診断と治療（腫瘍）	腫瘍の発生と段階について理解を深める	講義
	16	各障害のリハビリテーションの比較・分類	各障害のリハビリテーションについて、それぞれの特徴を比較し、共通点・相違点を説明できる。	講義
	17	後期期末試験		試験
	18	後期期末試験の解説・解答		講義



## 2025年度 鍼灸マッサージ科・鍼灸科

【分野】 専門分野 総合領域

## 【科目】 東洋医学総合講座Ⅱ-1

## 【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	奥津 貴子（おくつ たかこ） 行木 由紀子（なめき ゆきこ） 稲葉 崇（いなば たかし）	
単位数	4 単位	実務経験	附属施術所勤務・鍼灸整骨院勤務経験あり	
科目必選区分	必修	時間数	72	
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	講義 36 回

## 【授業情報】

授業概要	<p>【東洋医学概論】 東洋医学の歴史に触れることで、東洋医学の考え方や様々な治療法を知り、患者にとって最適な治療方針を立てることができるよう講義する。</p> <p>【経絡経穴概論】 1・2年で学習した内容をもとに、臨床応用をめざして講義する。 局所・要穴・関連学説や背部・腹部・頭部の経穴の配列、要穴と解剖学的位置を確認する。 また、各経絡の流注を確認する。</p>
授業の一般目標 (GIO)	<p>【東洋医学概論】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東洋医学の歴史を知る。</li> <li>・人体を東洋医学的に考察でき、弁証し治療するまでを理解する。</li> </ul> <p>【経絡経穴概論】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主要な関節付近の経穴を知る。</li> <li>・要穴の応用について理解する。</li> <li>・流注と患部との関係を理解する。</li> <li>・疾患に対し使用する経穴を考察する。</li> </ul>

## 【担当教員から】

教科書	新版 東洋医学概論 東洋療法学校協会 編 新版 経絡経穴概論 日本理療科教員連盟・東洋療法学校協会 編
参考書	特になし
成績評価基準	評価の観点は 1) 授業の理解と表現 2) 知識の浸透度と理解度とし、学期毎に行う中間・期末試験で評価する。
成績評価方法	前期成績評価の基準（評価割合(%)） 中間試験成績――― 20% 期末試験成績――― 80%
履修の条件 留意点	前期試験が60%以上かつ卒業試験の合格を以て履修とする。なお、本科目の定期試験受験の為には、授業の60%以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。
★担当者からの メッセージ	東洋医学と経穴の総まとめになります。 原理原則を理解した上で確実に暗記し、臨床の現場でも使えるようにしましょう。
オフィスアワー	授業開講日の休み時間および放課後 1F職員室

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SB0s)	講義形態
前期	1	東洋医学的治療（治療論）	東洋医学的治療論について説明できる。	講義
	2	経絡・経穴の現代的研究①	経絡・経穴の現代的研究を解釈できる。	講義
	3	東洋医学的治療（治療法）①	東洋医学的治療法（鍼・灸）について説明できる。	講義
	4	経絡・経穴の現代的研究②	経絡・経穴の現代的研究を解釈できる。	講義
	5	東洋医学的治療（治療法）②	東洋医学的治療法（導引・按蹻・湯液）について説明できる。	講義
	6	奇穴	奇穴の部位・主治について説明できる。	講義
	7	東洋医学的治療法の概要①	用具・手技の補瀉を説明できる。	講義
	8	奇経八脈	奇経八脈の主要穴と流注について説明できる。	講義
	9	中間試験		試験
	10	中間試験の解説・解答		講義
	11	東洋医学的治療法の概要②	難経六十九難・七十五難による取穴の補瀉、選穴の原則、特定穴の応用を説明できる。	講義
	12	経絡	経絡の概念・機能・構成を説明できる。	講義
	13	東洋医学的治療法の概要③	古代刺法、湯液を説明できる。	講義
	14	任脈・督脈の主要穴と流注	任脈・督脈の主要穴と流注について説明できる。	講義
	15	東洋医学の沿革①	東洋医学の起源・成立と発展を説明できる。	講義
	16	手の太陰経・手の少陰経の主要穴と流注	手の太陰経・手の少陰経の主要穴と流注について説明できる。	講義
	17	前期期末試験		試験
	18	前期期末試験の解説・解答		講義
後期	19	手の厥陰経・手の陽明経の主要穴と流注	手の厥陰経・手の陽明経の主要穴と流注について説明できる。	講義
	20	東洋医学の沿革②	日本における東洋医学の歴史と日中交流史を説明できる。	講義
	21	手の太陽経・手の少陽経の主要穴と流注	手の太陽経・手の少陽経の主要穴と流注について説明できる。	講義
	22	弁証論治の進め方と証の決定	外感病・内傷病を弁証できる。	講義
	23	足の陽明経・足の太陰経の主要穴と流注	足の陽明経・足の太陰経の主要穴と流注について説明できる。	講義
	24	東洋医学の生理と病理①	生理物質の相互関係を説明できる。	講義
	25	足の太陽経の主要穴と流注	足の太陽経の主要穴と流注について説明できる。	講義
	26	東洋医学の生理と病理②	五臓の相互関係を説明できる。	講義
	27	中間試験		試験
	28	中間試験の解説・解答		講義
	29	足の少陰経の主要穴と流注	足の少陰経の主要穴と流注について説明できる。	講義
	30	東洋医学の思想	東洋医学の思想を説明できる。	講義
	31	足の少陽経の主要穴と流注	足の少陽経の主要穴と流注について説明できる。	講義
	32	東洋医学的現象	東洋医学的現象を説明できる。	講義
	33	足の厥陰経の主要穴と流注	足の厥陰経の主要穴と流注について説明できる。	講義
	34	東洋医学的考察	東洋医学的考察ができる。	講義
	35	後期期末試験		試験
	36	後期期末試験の解説・解答		講義

## 2025年度 鍼灸科

【分野】 専門分野 総合領域

【科目】 東洋医学総合講座Ⅱ-2

## 【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	廣井 明子 (ひろい あきこ) 佐藤 亨子 (さとう きょうこ)	
単位数	4 単位	実務経験	附属施術所勤務・治療院勤務経験あり	
科目必選区分	必修	時間数	72	
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	講義 36 回

## 【授業情報】

授業概要	はりきゅう理論では、実務経験をもとに、鍼灸刺激によりおこる生体反応を例にあげながら授業を進めていく。鍼灸が人体に及ぼす影響や鎮痛のメカニズム、鍼灸に関する学説についての知識を身に付ける。 衛生学では、精神保健、母子保健、成人保健、高齢者保健、保健統計の現状と問題点や、健康を守るための社会的なシステムを重点的に学習する。
授業の一般目標 (GIO)	<p>【鍼灸理論】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・痛覚・温度覚・触圧覚の受容と伝達、鍼灸刺激による反射(反応)を説明できる。</li> <li>・鎮痛のメカニズムについて説明できる。</li> <li>・鍼灸刺激が自律神経や生体防御機構に与える影響について説明できる。</li> </ul> <p>【衛生学】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プライマリヘルスケアの内容が説明できる。</li> <li>・疾病の予防段階の分類ができる。</li> <li>・精神保健、母子保健、成人保健、高齢者保健、保健統計の現状が説明できる。</li> <li>・精神保健、母子保健、成人保健、高齢者保健の衛生行政の仕組みが説明できる。</li> <li>・疫学の意義とその研究方法が説明できる。</li> </ul>

## 【担当教員から】

教科書	「はりきゅう理論」第3版 (株)医道の日本社 「衛生学・公衆衛生学」医歯薬出版(株)
参考書	特になし
成績評価基準	評価の観点は1) 授業の理解と表現 2) 知識の浸透度と理解度とし、学期毎に行う中間・期末試験で評価する。
成績評価方法	前期成績評価の基準(評価割合(%)) 中間試験成績-----20% 期末試験成績-----80%
履修の条件 留意点	前期試験が60%以上かつ卒業試験の合格を以て履修とする。なお、本科目の定期試験受験の為には、授業の60%以上の出席が必要です。体調管理をしっかりと行い、授業の出欠には充分注意してください。
★担当者からの メッセージ	3年生のはりきゅう理論では、鍼灸刺激の作用機転や生体に与える影響などを学びます。臨床の現場では、鍼灸施術が身体にどのような影響を及ぼすのか、解剖学や生理学などの知識を基盤として説明することが求められます。鍼灸のメカニズムを患者さんに適切な言葉で説明できることを目指してください。 また衛生学では、医療人として、社会の動向を知り、社会に貢献できる素養を身につけることは大切なことです。この講義で、社会の動向を読む力をつけ、将来に役立てて欲しいと思います。
オフィスアワー	授業開講日の休み時間および放課後 1F職員室

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態
前期	1	感覚	感覚の種類、受容器と神経、伝導路について説明できる	講義
	2	痛覚の受容と伝導	痛みの分類、受容器の種類と特徴について説明できる	講義
	3	痛覚の受容と伝導	内因性発痛物質、痛みの伝導路について説明できる	講義
	4	痛覚の受容と伝導、温度覚の受容と伝導	関連痛、痛みの悪循環について説明できる 温度覚の受容器、伝導路について説明できる	講義
	5	触圧覚・深部感覚の受容と伝導	触圧覚・深部感覚の受容器、伝導路について説明できる。	講義
	6	自律神経系	交感神経・副交感神経、神経伝達物質と受容体について説明できる	講義
	7	反射	体性一運動反射について説明できる	講義
	8	反射	自律神経反射について説明できる	講義
	9	中間試験		試験
	10	中間試験の解説・解答		講義
	11	熱傷、炎症反応、トリガーポイント	熱傷、炎症反応とメディエーター、トリガーポイントについて説明できる	講義
	12	鍼鎮痛	鍼麻酔、ストレス誘発鎮痛、SPA、内因性オピオイドについて説明できる	講義
	13	鍼鎮痛	下行性痛覚抑制系、DNIC、ゲートコントロール説、末梢性鎮痛について説明できる	講義
	14	循環系と鍼灸	軸索反射、一酸化窒素について説明できる	講義
	15	運動系と鍼	Ia抑制・Ib抑制を介した筋緊張緩和について説明できる	講義
	16	自律神経系と鍼灸、生体防御系と鍼灸	消化器系、泌尿器系、免疫系への鍼灸の作用について説明できる	講義
	17	期末試験		試験
	18	期末試験の解説・解答		講義
後期	19	リラクゼーションと鍼灸、灸刺激の作用、鍼灸施術の治療的作用	鍼灸のリラクゼーション効果、灸刺激が生体に及ぼす作用、鍼灸の治療的作用について説明できる	講義
	20	衛生学・公衆衛生学の意義・健康	・プライマリヘルスケアの内容が説明できる ・予防段階とその内容・具体例が分類できる	講義
	21	治効機序と臨床の接点	鍼灸治療における刺激部位・受容器と神経、刺激強度、刺入深度について説明できる	講義
	22	衛生学・公衆衛生学の意義・健康 ・ライフスタイルと健康	・健康の概念について理解する ・健康問題について現状を理解する	講義
	23	治効機序と臨床の接点	局所治療・遠隔治療に関わる鎮痛機序を説明できる	講義
	24	環境と健康	環境問題について現状を理解する	講義
	25	鍼治効の応用	鍼の治療効果を生理学的観点から説明できる	講義
	26	・産業保健 ・精神保健 ・母子保健 ・学校保健	産業保健、精神保健、母子保健・学校保健について現状を理解する	講義
	27	中間試験		試験
	28	中間試験の解説・解答		講義
	29	鍼治効の応用	鍼の治療効果を生理学的観点から説明できる	講義
	30	成人保健 高齢者保健	成人保健、高齢者保健について現状を理解する	講義
	31	灸治効の応用	灸の治療効果を生理学的観点から説明できる	講義
	32	感染症とその対策 消毒法	・感染症について現状を理解する ・消毒について業務に必要な知識を習得する	講義
	33	灸治効の応用	灸の治療効果を生理学的観点から説明できる	講義
	34	疫学 保健統計	・疫学を理解し、業務に活用できるようにする ・人口統計、疾病統計について現状を理解する	講義
	35	期末試験		試験
	36	期末試験の解説・解答		講義